

スマートなキリン

アニマルフォトグラファー

トラベルライター

平 岩 雅 代

キリンはとても背が高い生き物です。体長は4.5～5.5メートル。地面から肩までの高さでも2～3メートルです。

岩壁画や各地から出土された骨から推測してみると、かつてキリンは北アフリカや現在のサハラ砂漠あたりにまで分布していたようですが、現在では東アフリカ(ケニア, タンザニア, ウガンダとエチオピア, スーダンの一部)から, 西アフリカ南部, そして南アフリカの中央部などで見ることができます。

キリンの模様は生息地域によって差があり, 色も薄いものから濃いものまでさまざまです。

キリンは他の動物とは違い, 長い首と長い脚を持っていますが, これは環境に適応

するために進化した結果です。

ヒトの祖先といわれるホモ・ハビリス(器用なヒトという意味の, 直立歩行をした生き物)の化石が発見されたのは, タンザニアのオルドバイ渓谷。今からおよそ200万年前, オルドバイ渓谷のあたりには, 大きな湖があった, ということです。この湖にはワニ, カバをはじめナマズ, テラピアといった淡水魚が住み, 湖岸から広がる疎林地には, ズウ, キリン, サイ, イノシシなど, 現在でも見ることができる大型ほ乳類が暮らしていたことがわかっていますが, いずれも現在より遥かに大きかったことが, 化石から証明されています。

ところでキリンの親せきに“オカビ”という動物がいます。オカビはアフリカ中央部, ザイールのイトゥーリの森の中に, ひっそり暮らす動物ですが, 謎がいっぱい。

オカビは1890年に出版されたヘンリー・モートン・スタンレーの著書『アフリカの暗闇』の中で, 初めてヨーロッパに紹介されました。

臆病で首の長いロバのような姿をしたオカビは, まるでキリンそっくりの顔をしており, 50センチ近くもある長い舌で, 木の梢

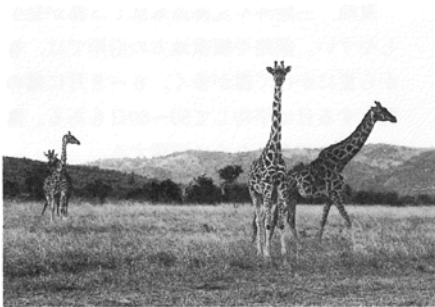


写真1 キリンは母親が中心になり群れを作る

の葉を上手に食べます。不思議なことに、オカピの四肢にはシマウマのような縞模様があり、体は全体に濃い茶色をしています。

ちなみにオカピは、中国のジャイアントパンダ、中央アフリカのコビトカバ、ケニアのボンゴ(アバーディア山麓に住む鈴羊)と並び、“世界4大珍獣”に分類されています。

さてキリンは、草原でシマウマやガゼルなど、他の草食獣と共に暮らすようになりました。何しろズバ抜けて背の高いキリンのこと。見張り役にピッタリ。視力が良いせいもあって、肉食獣の姿を発見すると、すぐに安全な場所へ移動します。お陰でシマウマやヌーもキリンと一緒にいれば安心というわけ……。

キリンの特徴のひとつである長い脚ですが、立ったり座ったりが大の苦手であるのも事実。周囲が安全でない限り、野生のキリンは眠る時でも座りません。

水を飲むのもキリンにとっては一仕事。まず四肢を少しずつ上げ、倒れないようにバランスをとって頭を下げ、少しずつ水面に顔を近づけます。

キリンの好物はアカシアの葉ですが、この木には“つまようじ”位の大きさの固いトゲがあります。ところがキリンは長い舌を

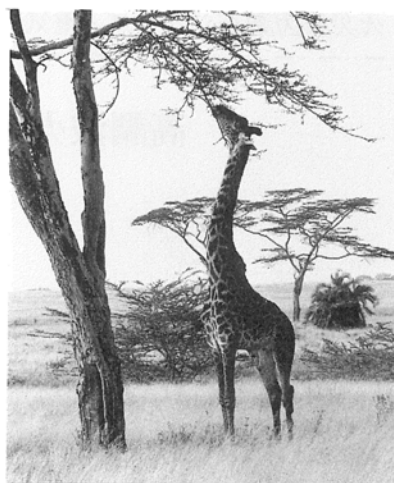


写真2 高い木の梢葉もラクラクと食べる

上手にを使って、トゲが刺さらないように葉だけを食べます。他の動物が届かない高い木も平気。

キリンの寿命は30年程といわれていますが、妊娠期間は400~500日。丸1年以上かけて生まれてくる赤ちゃんは、2メートルの高さから文字通り地面に産み落とされるのですが、よく怪我をしないものです。

最後に面白いキリンの歩き方をご紹介します。どのキリンも片側の前後の肢を同時に動かします。変わっていますね。

〈キリンひとくちメモ〉

▶東アフリカに暮らすキリンは、次の3種類――

マサイキリン＝タンザニア各地とケニア南部に分布し、斑はギザギザの複雑な形。

アミメキリン＝ケニア北部から中央部とウガンダの一部に分布し、斑は不等辺の四角から八角形。日本国内の動物園で

も見られる。

ウガンダキリン＝ケニア北部とウガンダ北東部に分布し、斑はマサイキリンとアミメキリンの中間のよう。膝下から蹄まで、靴下をはいたように白い。

▶東アフリカ各国(ケニア、タンザニア、ウガンダなど)で話されている公用語のスワヒリ語で、キリンは“トゥイガ”と呼ばれている。